別添資料①

住民除雪・除雪交流の取組事例

平成２７年３月

国土交通省　国土政策局　地方振興課

※この事例集は「平成26年度　雪処理の担い手の確保・育成のための克雪体制支援調査業務」に取り組まれた11地域の活動を紹介したものです。

取組の内容

この事例集では・・・・　地域住民による除雪活動や、除雪をきっかけとした非豪雪地帯との交流活動の事例を紹介しています。

豪雪地帯

事例①②③④⑤　**自治会**で除雪ボランティア組織をつくりたい！

事例⑤　子供達の**通学路**を守りたい！

事例①⑤⑥⑦　**地域イベント**や**観光**に除雪を活かしたい！

事例⑦⑧⑨　除雪作業の**スキル**を高めたい！

事例⑧　雪下ろしの**事故**を減らしたい！

非豪雪地帯

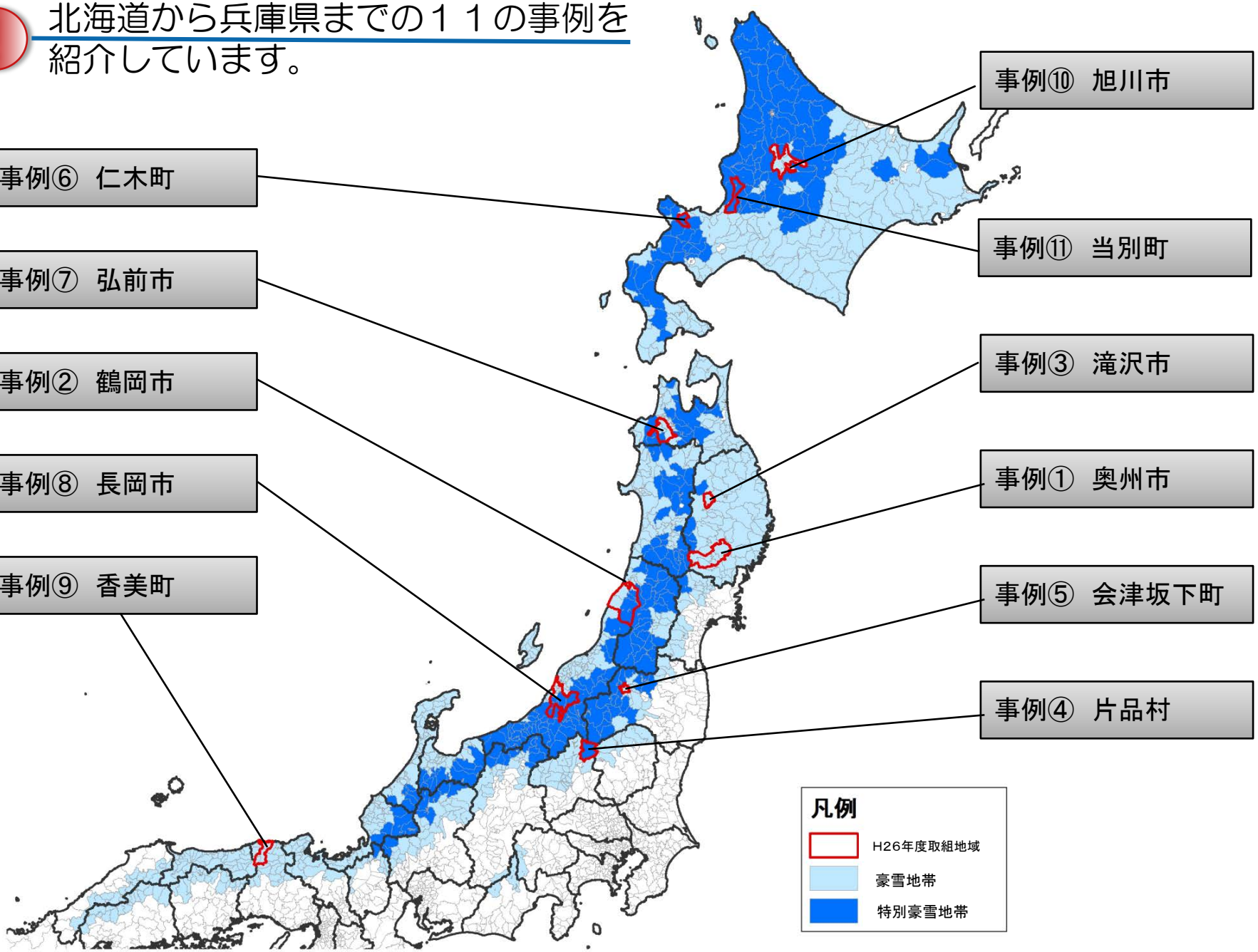
事例⑩　**夏の交流**を冬に活かしたい！

事例⑪　雪国への**移住**をサポートしたい！

事例④⑧⑨⑪　**雪が降らない地域**の人達と交流したい！

取組地域

北海道から兵庫県までの１１の事例を紹介しています。



＜掲載事例の目次＞

NO	活動地域	事例名	事例の分類
事例①	岩手県奥州市	伊手スノーバスターズ	自治会除雪、地域イベント
事例②	山形県鶴岡市	三瀬スノースイーパー（S.S.S.）	自治会除雪
事例③	岩手県滝沢市	上の山まごころ除雪隊	自治会除雪
事例④	群馬県片品村	片品スノーバスターズ	自治会除雪、 雪が降らない地域との交流
事例⑤	福島県会津坂下町	通学路・スノーパトロール	自治会除雪、通学路除雪、 地域イベント
事例⑥	北海道仁木町	銀山地域イベント「白銀物語」	地域イベント
事例⑦	青森県弘前市	学生ボランティア「雪かたづけ隊」	地域イベント、除雪スキル
事例⑧	新潟県長岡市	越後雪かき道場®	除雪スキル、事故防止、 雪が降らない地域との交流
事例⑨	兵庫県香美町	「海・山」「都会・地方」除雪交流	除雪スキル、 雪が降らない地域との交流
事例⑩	北海道旭川市	ゴルフ場利用者・除雪ボランティア	夏の交流
事例⑪	北海道当別町	冬の暮らし体験移住促進ツアー	雪国移住、 雪が降らない地域との交流

伊手スノーバスターズ

岩手県
奥州市

ポイント

- オペレーター隊、トラクター隊、地域貢献隊（業者）からなる除雪隊を組織
- 門口の長さを逆手にとり、小中学生を巻き込む「雪だるま大作戦」も実施

実施主体

社会福祉法人奥州市社会福祉協議会
〔活動地域：江刺区伊手地区〕

自治体

岩手県奥州市　人口124,235人　高齢化率29．6%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 平成26年2月、奥州市江刺区伊手地区の一人暮らし高齢者宅で、大雪のために自宅から除雪路線までの門口が通行できなくなり半月間外出できない事態が発生した。
- 伊手地区は全10地区からなる江刺区の中で最も過疎化が進む地区で、自宅から除雪路線までの門口が100m以上もある家屋が多数みられる。
- 今後の高齢化を考えると、今の段階から地区毎の除雪支援や見守り・買物支援等の体制を構築しておくことが求められている。

取組内容

- 伊手地区をモデルに地元振興会と地区センター、社会福祉協議会との連携により、オペレーター隊、トラクター隊、地域貢献隊からなる伊手スノーバスターズを試行的に立ち上げて、活動を行った。またイベント的な要素として高齢者と小中学生との交流企画も実践した。

  ○実態把握調査（冬期の買物、除雪等）
  ○伊手スノーバスターズの設立・活動実践
  ○交流イベント「雪だるま大作戦」～小中学生による高齢者宅除雪、雪だるまづくり

主な成果

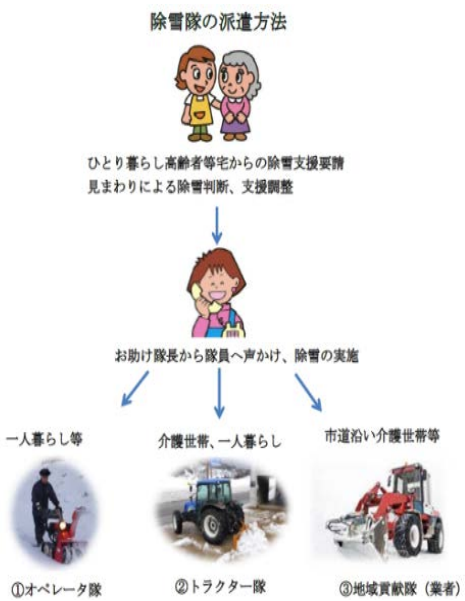
- 地区内高齢者宅の除雪を、地区内の様々な担い手（ボランティア、業者等）で共助していく制度設計ができた。

人力による門口の除雪

伊手スノーバスターズの除雪活動

雪だるま大作戦

除雪隊の派遣方法



小中学生がつくった雪だるま

三瀬スノースイーパー（S.S.S.）

山形県
鶴岡市

ポイント

- **自治会有志による有償除雪ボランティア組織。毎年参加メンバーが拡大中**
- **高齢者宅の除雪だけでなく、地域内の雪問題を解決（※）する組織に転換中**

※メンバーが自己判断で避難道や無人寺の除雪、冬期危険箇所の巡視などを実施

実施主体

鶴岡市三瀬地区自治会
〔活動地域：三瀬地区〕

自治体

山形県鶴岡市　人口135,403人　高齢化率29．6%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 三瀬地区は人口約1,500人の自治会。県内の特別豪雪地帯ほど積雪はないが、高齢化が進んでいるため自力で除雪作業が出来ない世帯が増えている。
- また近年、短期間に多量の雪が積もる「ドカ雪」の発生回数も増え、地域コミュニティ内での除雪体制づくりが課題となってきた。
- 平成24年度に自治会有志で除雪ボランティア組織を立ち上げ、平成25年度に「三瀬スノースイーパー（S.S.S.）」として本格的に始動したところである。

取組内容

- S.S.S.として平成25年度から体制を増強するとともに、自主的な活動も充実させた。
  - ○体制　事務局1名、除雪リーダー1名、除雪作業員29名（平成25年度は17名）
  - ○役割　除雪依頼者からの除雪対応　※ボランティア1人あたり800円/時間
    自主的な活動（危険箇所発見のためのパトロール、避難道除雪、巨大つらら撤去、無人寺除雪、強風による看板倒壊の処理等）
- 秋口にはS.S.S.メンバーに対する小型除雪機械操作の講習会を開催した。

主な成果

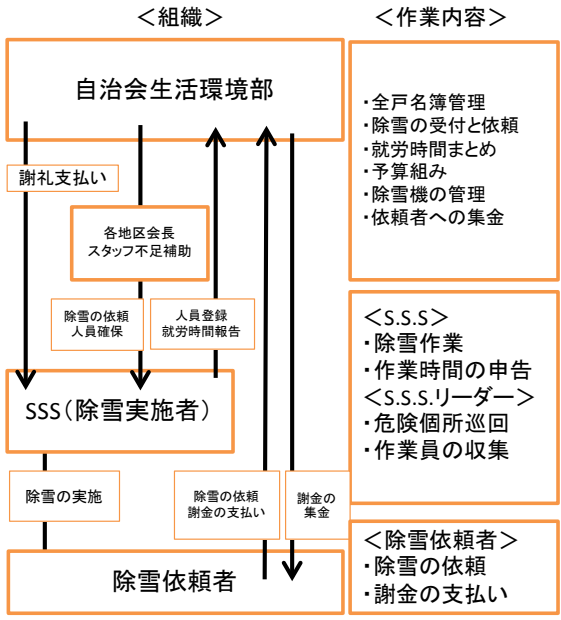
- 除雪作業員が増強できた。
- 新規加入メンバーは30代5名、20代1名と若者の参加が進んだ。

S.S.S.のメンバー

除雪活動

小型除雪機械操作講習会

S.S.S.の仕組み



上の山まごころ除雪隊

岩手県
滝沢市

ポイント

- 自治会自らが除雪隊を結成し、レンタルした大型除雪機械で寄せ雪を排雪処理
- 活動日に多くの住民が参加・協力し、住民協働と住民連帯の機運が一気に高まる

実施主体

岩手県滝沢市上の山自治会
〔活動地域：上の山団地〕

自治体

岩手県滝沢市　人口54,710人　高齢化率18．6%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 上の山団地は昭和50年代に開発された総区画247の大規模団地。入居当時30～40代が中心であったが現在は市内でも最も高齢化率の高い自治会となっている。
- 地域コミュニティ活動は活発な自治会で平成18年豪雪においても旧滝沢村初の住民協働の除雪活動が行われた。現在も不定期に共助除雪の活動を実施している。
- 山に造成された団地で平地よりも降雪量が多く除雪に苦労しており、特に除雪車の寄せ雪処理が大きな課題。高齢化によって人力での共助除雪も難しくなっている。

取組内容

- 自治会有志10数名で除雪隊を結成し、機材をレンタルして毎週除雪を実施している。
  - ○使用機材　：ホイールローダー1～2台、排雪ダンプ1～2台
  - ○活動時期　：原則12月～2月までの毎日曜日の午前中　※積雪状況による
  - ○体制　　：7名（リーダー1名、警備員2名、ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ2名、ダンプ運転手2名）
  - ○ルール　　：除雪時間直前であれば、敷地の雪を道路に出しても良い
  - ○費用負担　：地域住民の負担無し、除雪隊メンバーには謝金あり

主な成果

- 路面の凹凸が解消し、交差点・歩道周囲の排雪も行われて楽に移動できるようになった。
- 除雪活動の時間になると住民が除雪に参加するようになり、連帯感が高まった。
- 除雪隊メンバーの定年後の地域貢献や生きがいの機会が提供できた。

上の山団地

住民説明会

ホイールローダーによる除雪活動

警備員による安全確認

住民の除雪協力

自治会ニュースによる周知

片品スノーバスターズ

群馬県
片品村

ポイント

- 雪かき道具、ウェア、活動費等を支給して、**地区単位の除雪組織を強化**
- 片品雪かき体験会を開催し、県内の豪雪地帯と非豪雪地帯が助け合う関係性を構築

実施主体

社会福祉法人片品村社会福祉協議会
〔活動地域：片品村〕

自治体

群馬県片品村　人口5,012人　高齢化率30．2%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 片品村社会福祉協議会では、平成20年度にスノーバスターズ（除雪ボランティア）を設置し、地域内の高齢者世帯の見守りや除雪支援等を行っている。
- 組織化している地域は3分の1程度であり、それ以外の地域は社協職員や行政職員が巡回して除雪をしている。
- 財政状況の厳しい中、スノーバスターズの組織化を広めるとともに、関東地方唯一の特別豪雪地帯として、他市町村から除雪支援を受ける体制の整備が課題である。

取組内容

- 地区リーダー会議を開催し、スノーバスターズの活動について理解と協力を求め、スノーダンプ、スコップ、ジャンパー等の配布や除雪機燃料代の助成で活動を支援した。
- 講演会「大雪災害とボランティア」を開催するとともに、行政同士で防災協定のある上尾市社協、前橋市社協、榛東村社協とで外部支援会議を開催。
- 上尾市社協、前橋市社協、榛東村社協からの職員参加を得て、片品雪かき体験会を開催し、高齢者単独世帯の除雪作業を行った。

主な成果

- 講演会やチラシ、除雪道具やジャンパーの配布等によるPR効果により、スノーバスターズの登録地域が2倍の20地区に増えた。
- 片品雪かき体験会を通して、豪雪地帯と非豪雪地帯の交流が図られ、将来的に「上州雪かき道場」を独自開催する方向性が見出された。

講演会

ボランティア募集チラシ

地区に配備した雪かき道具

片品雪かき体験会

通学路・スノーパトロール

福島県
会津坂下町

ポイント

- PTA、青年会議所、自治会など10団体で実行委員会を組織して冬の通学路を点検
- 広報誌、チラシ、ポスター、ラジオ、ＳＮＳ等で活動趣旨説明とボランティア募集

実施主体

特定非営利活動法人市民活動支援組織NIVO
〔活動地域：会津坂下町〕

自治体

福島県会津坂下町　人口17,381人　高齢化率29．5%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 学校の適正配置に伴い通学路が変更になり、国県道の歩道を通学する児童が増え、冬期間の登下校において危険箇所が見受けられるようになった。
- 東日本大震災の発生に伴い、ボランティアの機運が高まっていた。地域の大人が通学路を見まわり、除雪ボランティア活動を行うことで、共助の精神を育むことをねらいとして、平成25年度にスノーパトロールを実施。
- しかし平成25年度は少雪のため、準備はしたものの十分な活動ができなかった。

取組内容

- 子ども見守り隊、小中学校PTA、地区育成会、地域づくり協議会、青年会議所、自治会会長会等からなる実行委員会を組織し、通学路のパトロールを行った（10回）。
- 広報で除雪ボランティアを募集・確保するとともに、パトロールの結果をもとに、通学路の除雪、氷割り、融雪剤の散布を行った（9回）。
- シーズン前にスノーパトロール決起集会、小型除雪機安全講習会を開催し、シーズン後半では、活動の周知を図るため雪像づくりイベントを開催した。

主な成果

- 通学路のパトロールと除雪作業を連動させ、効率的に活動することができ、地域づくりの核となる多様な団体の連携体制が強化された。
- 住民からの情報提供、自治会役員からの融雪剤散布の申し出、近隣住民による自主的な除雪活動、高校生の除雪参加など、共助の動きが徐々に広がっている。

歩道の除雪と氷割

バス停の除雪

チラシ＆ポスター

小型除雪機安全講習会

雪像づくりイベント

銀山地域イベント「白銀物語」

北海道
仁木町

ポイント

- 地元社会福祉法人や大学のサポートによって**２年目の地域住民参加イベント**が開催
- 紙袋ランタン、餅つき、一斉除雪、百人一首等で地域内外・多世代交流が実現

実施主体　銀山地域づくり研究会
〔活動地域：銀山地域〕

自治体　北海道仁木町　人口3,674人　高齢化率35．4%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 銀山地域は雪が多く、過疎化・高齢化も著しい地域であり、将来的には雪処理担い手不足が問題となるため、今からの体制づくりが求められている。一方で、銀山地域には「社会福祉法人後志報恩会銀山学園」等の福祉施設が立地し、様々な地域活動にも積極的に参加している。
- 平成25年度に役場主導で本事業を実施し、雪処理の問題や住民意向等を調べた結果、「今はまだ問題ではないが、将来を考えると地域内外の交流機会を充実させたい」との結論に至り、第1回「白銀物語」を開催したところである。

取組内容

- 平成26年度は、仁木町役場から社会福祉法人のスタッフも参画する銀山地域づくり研究会に実施主体がバトンタッチされた。また平成25年度に引き続き、小樽商科大学の協力も得ることができ、次の取り組みを実施した。

〇地域づくり講演会（講師：北海道科学大学　濱谷　雅弘　教授）
〇高齢者宅の聞き取り調査
〇第2回白銀物語（紙袋ランタン、餅つき、一斉除雪、百人一首、豚汁作り等）

主な成果

- 冬期は家に引きこもりがちとなる高齢者等が集えるコミュニティの機会として周知が広がり、参加者も増えた。
- 紙袋ランタンは自らもイベントに参加できる有効な手法であることが確認できた。

大学生と住民・子供達との餅つき

紙袋ランタンの設置作業

紙袋ランタンを灯すイベント

保育園の一斉除雪

大学生との交流（豚汁、百人一首）

学生ボランティア「雪かたづけ隊」

青森県
弘前市

ポイント

- 雪かきの常識（負のイメージ）を覆す、知り・学び・楽しむ雪かき講座を開催
- レクリエーションを取り入れ、弘前大学学生ボランティア「雪かたづけ隊」を育成

実施主体

社会福祉法人弘前市社会福祉協議会
〔活動地域：弘前市〕

自治体

青森県弘前市　人口180,607人　高齢化率27．0%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 弘前市は平成24年度に統計開始以来の最高積雪深を記録した豪雪地帯。今後は急速に過疎化・高齢化が進むため、雪処理の体制づくりが求められている。
- 市内には東日本大震災の時に設立された弘前大学ボランティアセンターがあり、災害支援に集まった学生達を除雪ボランティアに活用する可能性があった。
- また、雪かきの技術を楽しみながら伝える「津軽ひろさき雪かき検定」を実践する団体もあり、雪かきの技術、道具の使い方、注意点等のノウハウを持っていた。

取組内容

- 社会福祉協議会が中心となり、学生ボランティア「雪かたづけ隊」と市民ボランティアを雪処理の担い手としていくため、弘前市の支援や「津軽ひろさき雪かき検定」実行委員会による技術指導を受けて、ボランティアのスキルを高める活動を展開した。
  - ○座学　～「弘前市の除雪活動の現状、雪かきのノウハウ等について」
  - ○雪かき検定　～遊びの要素を入れながら初心者に雪かきのノウハウを伝える
  - ○地域除雪活動　～通学路の除雪を学生と市民のボランティアが実践

主な成果

- 学生ボランティアと市民ボランティアに雪かきの初歩的なノウハウを伝えるとともに、実践するための仕組みや関係者の役割の大枠が構築できた。

告知ポスター

座学

実技講習

雪かき検定

小学校の通学路での除雪

越後雪かき道場®

新潟県他

ポイント

- **非豪雪地帯が大雪に見舞われた場合を想定**し、広域除雪ボランティアを育成
- チームを率いて現場で状況判断と安全管理ができる除雪リーダーを養成

実施主体

特定非営利活動法人中越防災フロンティア
〔活動地域：新潟県他〕

自治体

新潟県長岡市　人口281,411人　高齢化率26．4%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 越後雪かき道場®は、平成18年豪雪の経験を教訓とし、雪処理の担い手育成のため、平成19年1月に開設。9シーズンが終了し、1,000名以上の修了生を輩出している。
- 特に近年は、除雪作業の安全確保に重点的に取り組んでおり、新潟県及び山形県を中心に雪下ろし転落防止のための安全帯講習を展開している。
- 平成25年度の関東甲信地域を襲った大雪によって、非豪雪地帯における雪害対応（担い手の確保・育成、受援力、安全管理等）が新たな問題となった。

取組内容

- 越後雪かき道場として、新潟県内外で延べ9回（初級5回104名、中級3回25名、上級1回11名）の除雪ボランティア講習を開催。上級では安全管理とボランティアのコーディネートと安全管理ができる除雪リーダー（指導者）養成プログラムを実施した。
- 長野県で2回、除雪ボランティア受け入れコーディネーターの養成講習会を実施した。
- 広域除雪ボランティアの安全性向上を図るため、非豪雪地帯向けの安全講習（ワークショップ）を実施し、雪に不慣れな地域に向けた除雪安全啓発チラシを作成した。

主な成果

- リーダーとしてチームを率いて安全かつ効率的に作業ができる人材を育成した。
- 越後雪かき道場®の運営ノウハウが各地に継承・水平展開されることにより、除雪ボランティアの安全確保及び受け入れ環境・体制づくりに寄与した。

除雪リーダー養成

受け入れコーディネーター養成

非豪雪地帯向けの除雪安全啓発チラシ

「海・山」「都会・地方」除雪交流

兵庫県
香美町

ポイント

- 越後雪かき道場®から運営ノウハウを学び、支援を受ける力（受援力）を向上
- 非豪雪地帯からボランティアを確保するため、雪かきの理解を深めるDVDを制作

実施主体

社会福祉法人香美町社会福祉協議会
〔活動地域：香美町村岡区・小代区〕

自治体

兵庫県香美町　人口20,112人　高齢化率33．2%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 高齢化と人口減少の進行により、地域住民の支え合いでは除雪作業が困難になりつつあり、集落、町社協、行政、県社協の協働による体制づくりが求められている。
- 村岡区・小代区は、小規模集落、限界集落が多く、主要道路から離れたところに住居が点在しているため、除雪作業の負荷が極めて大きい。
- 兵庫県内では雪が少ない地域に人口が集中していることから、平成24年から広域的にボランティアを募集し、受け入れるという活動を試行している。

取組内容

- 香美町内の海・山（豪雪地帯と非豪雪地帯）交流として、「夏は海岸清掃」「冬は除雪」というボランティア交流の新しい機会を作った。
- 高校生による合同除雪隊の除雪ボランティア活動をコーディネートした。
- 越後雪かき道場®（雪かき指導者講習）を開催し、除雪作業について説明できる人材、受け入れたボランティアを的確にコーディネートできる人材を育成した。
- 非豪雪地帯の都市部からのボランティア募集を強化するため、雪かきへの理解や指導のポイントをわかりやすく学べるDVDを作成した。

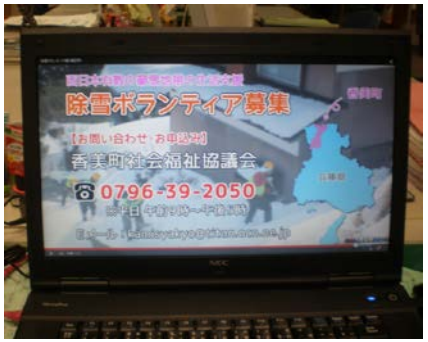
主な成果

- 香美町において広域的な除雪ボランティアを受け入れる体制と実績ができた。
- 雪かき指導者用DVDと除雪ボランティア活動マニュアルを作成した。

海岸清掃ボランティア

高校生による除雪ボランティア

制作したDVD



除雪ボランティア

越後雪かき道場®の開催

ゴルフ場利用者・除雪ボランティア

北海道
旭川市

ポイント

- **パークゴルフ場の利用者**に除雪ボランティアを依頼した場合の参加可能性を調査
- 都市住民の参加意欲は高く、地元高齢者のニーズと組み合わせる必要性を確認

実施主体

西神楽エコ農村共生対流推進協議会
〔活動地域：西神楽〕

自治体

北海道旭川市　人口349,332人　高齢化率27．6%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 西神楽は市の南東側に位置する農村地域で、人口減少が進む市の中でも特に若者の減少と高齢化の進行が著しい。地域協働で除雪支援や屋根の雪下ろし支援、交差点除雪、砂巻き等を進めているが、今後の更なる高齢化を考えると地域ボランティアだけでは不安が残るのが現状である。
- 西神楽地域は、住民手作りのパークゴルフ場があり、5月～10月のワンシーズンで延べ45,000人もの都市住民が訪れている。

取組内容

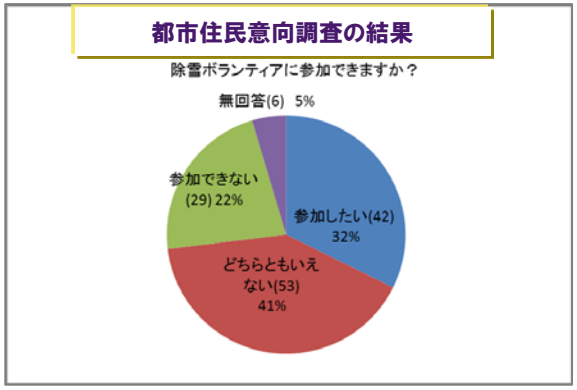
- 都市住民（パークゴルフ場利用者）による地域高齢者の除雪支援プログラムの実現可能性を検証するため、意向調査や試行的な除雪活動を実施した。
  - ○都市住民意向調査：平成26年8月にゴルフ場来場者聞き取り調査実施（130人回答）。3割強が「参加したい」と回答。
  - ○農村独居高齢者意向調査：地域内4老人会への聞き取り調査実施（120人回答）。3割弱が除雪支援を希望。
  - ○プログラム試行：今冬は記録的な少雪で除雪の必要性は小さかったが、プログラム検証の目的で2月に除雪実施。

主な成果

- 都市住民の参加意欲の高さが把握でき、プログラム構築に向けた第一歩はクリア。
- 都市住民と高齢者との除雪日のマッチングの仕方等に課題があることも確認できた。

パークゴルフ場

都市住民意向調査



農村独居高齢者意向調査

除雪ボランティアによる除雪作業

冬の暮らし体験 移住促進ツアー

北海道
当別町

ポイント

- 冬の暮らし体験として**雪かき作業を取り入れた移住体験ツアー**を実施
- 雪国の大変さと楽しさの両面を体験してもらうことで、移住促進の可能性が拡大

実施主体

（一社）北海道開発技術センター
〔活動地域：当別町〕

自治体

北海道当別町　人口17,835人　高齢化率26．8%
※平成25年3月31日　住民基本台帳

きっかけ

- 当別町は、移住促進事業に積極的に取り組んでいる。家具・家電付きの住宅を一定期間借りることができるおためし暮らし事業を実施し、平成17年以降200人以上が移住している。
- 当別町社会福祉協議会では、地元高校生、大学生、自衛隊職員らの協力を得て、自力で除雪ができない住民の住宅周りのボランティア除雪活動を行っている。
- 北海道への移住の阻害要因のトップに「冬が寒い、雪が多い」が挙げられており、冬の暮らしに対する不安の払しょくが課題となっている。

取組内容

- 除雪ボランティアを「冬の暮らし体験」として利用した移住促進ツアープログラムを開発し、「移住体験モニターツアーIn 当別」を実施した。
  - ○対象　：北海道当別町への移住を検討している方
  - ○日時　：平成27年2月19日（木）～21日（土）　2泊3日
  - ○募集人数　：限定10名
  - ○ツアー内容　：バスツアー、移住説明会、雪かき講習会、雪かき体験、氷のホテル観光、雪遊び体験、先輩移住者との交流会など
  - ○旅行代金　：1人25,000円（新千歳空港までの往復旅費は自己負担）

主な成果

- 雪かきや除雪機の操作を実際に体験する機会を提供することによって、移住者の不安を解消することができた。

雪かき講習会

雪かき体験

モニターツアーの募集チラシ

先輩移住者との交流会

氷のホテル（アイスヒルズホテル）

＜掲載事例の基礎情報＞

NO	事例名	実施主体	実施地域	地方						人口規模（自治体）					活動分類																		活動開始年	連絡先（電話番号）
				北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	1万人未満	1～3万人	3～10万人	10～30万人	30万人以上	計画づくり	活動場所						組織づくり		ボランティア属性				料金	安全対策の検討	シンポジウム等	人材派遣	交流イベント	冬期居住	技能伝承・人材育成	IT活用	助成制度		
																	要支援者宅	事業所	公共施設	バス停	道路・歩道	通学路	その他	活動団体	ボラセン	学生	企業	行政・団体	地区内	広域	有償									
事例①	伊手スノーバスターズ	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会	岩手県奥州市		○									○			○						○			○		○					○					H26	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会江刺支所 0197-35-8081
事例②	三瀬スノースイーパー（S.S.S.）	鶴岡市三瀬地区自治会	山形県鶴岡市		○									○			○		○		○		○	○				○										H24	鶴岡市三瀬地区自治会 0235-73-2001
事例③	上の山まごころ除雪隊	滝沢市上の山自治会	岩手県滝沢市		○								○							○	○			○				○										H26	滝沢市上の山自治会 019-687-3334
事例④	片品スノーバスターズ	社会福祉法人片品村社会福祉協議会	群馬県片品村			○					○						○							○				○	○			○						H20	社会福祉法人片品村社会福祉協議会 0278-58-4812
事例⑤	通学路・スノーパトロール	特定非営利活動法人市民活動支援組織NIVO	福島県会津坂下町		○							○								○		○		○				○	○									H25	NPO法人市民活動支援組織NIVO 0242-84-2135
事例⑥	銀山地域イベント「白銀物語」	銀山地域づくり研究会	北海道仁木町	○							○						○		○						○		○	○	○	○			○						H25	銀山地域づくり研究会 0135-33-5311
事例⑦	学生ボランティア「雪かたづけ隊」	社会福祉法人弘前市社会福祉協議会	青森県弘前市		○									○							○	○			○				○					○				H26	社会福祉法人弘前市社会福祉協議会 0172-33-1161
事例⑧	越後雪かき道場®	特定非営利活動法人中越防災フロンティア	新潟県長岡市				○							○			○												○	○			○		○				H18	公益社団法人中越防災安全推進機構地域防災力センター 0258-39-5525
事例⑨	「海・山」「都会・地方」除雪交流	社会福祉法人香美町社会福祉協議会	兵庫県香美町						○			○					○								○		○	○	○	○									H24	社会福祉法人香美町社会福祉協議会村岡支所 0796-98-1000
事例⑩	ゴルフ場利用者・除雪ボランティア	西神楽エコ農村共生対流推進協議会	北海道旭川市	○											○		○		○										○										H26	西神楽エコ農村共生対流推進協議会 0166-75-5305
事例⑪	冬の暮らし体験移住促進ツアー	一般社団法人北海道開発技術センター	北海道当別町	○								○					○												○			○						H26	一般社団法人北海道開発技術センター　地域政策研究所 011-738-3364